



特集

わたしが 教室を開く 理由



一番好きな言葉「好日は」
にちにちこれこうじつ

上手に書けた嬉しさを共有 子ども達の笑顔が教える喜び

福元書道教室
福元 みえ子 さん

机いっぱいには並ぶ書道半紙。息をのむほど美しい書道のお手本が丁寧に書かれている。

末吉町深川の自宅で書道教室を運営している福元みえ子さんは師範資格や毛筆書写技能検定1級・硬筆書写技能検定1級を取得している実力者。人に指導するには、もっと勉強しなければと決意して大学で学び、平成22年に書写指導の免許を取得しています。

現在では曾於市のほかに霧島市・鹿屋市で複数の教室を受け持ち、美恵子・溪翠けいすいというふたつの雅号がごうを持つ書道講師です。

幼少期からずっと書道をしてきた福元さんは20代の頃に人のために書く喜びに気づきました。

「人から頼まれて文字を書いたら、とっても喜んでくれたうえに、額に入れてずっと家に飾ってくれていたんです。他にも結婚式で横断幕を書いたら、みんな私の字と一緒に写真を撮ってくれて。そこで字には人を喜ばせる魅力があるって分かったんです」

若い頃、悩み事があった時には一晩中書いて、辛いことを忘れた

こともありました。

「墨の匂いを嗅ぐとほっとできるんです。私の場合は嫌なことを水に流すより墨に流しちやいます」

園児から大人まで教える福元さんの書道教室。特に子ども達には文字を書くことを好きになってもらい、楽しく書いてほしいと、とにかく褒めてあげています。

「花丸をいっぱいあげて、上手に書けたね」とたくさん褒めてあげています。それが一番ですね」

福元さんは地域書道講師支援員として小学校の書き初め展や硬筆コンクールの書写指導にも出向いています。生徒が賞をとって大きなトロフィーをもらった時は自分のことのように嬉しいそう。

「教室には書道を学びたい生徒さんが待っています。上手に書いて喜

ぶ笑顔に、私も元気がもらえる。そんな明るい教室に行くことがとても楽しみです」

いつまでも書道教室を続けていきたいと話す福元さんでした。



自信作の書『瀧』



わたしが教室を開く理由







人が集まる所に行く 仲間ができると 人生が楽しくなる

曾於市総合大学
DIY&木工教室 講師
前田 達夫 さん

工場のホワイトボードにはDIYの文字。テレビなどで耳にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。これはdo-it-yourselfの略で自分の考えで好きなように作るということ。

ここは曾於市総合大学「DIY & 木工教室」の講師を務める前田達夫さんの工場。前田さんは建設会社を経営しながら、前身の大隅町生涯学習弥五郎大学の頃から講師を務め、平成11年から現在まで通算20年以上、約250名に日曜大工・DIY・木工を教えてきました。

「父が建具職人で木工品も作っていました。その影響で私も木工をするようになりました」

全12回の講義では始めに道具の手入れや基本動作の実習をします。「道具の手入れをしっかりとすれば、何度でも使えるからね。基本も身に付ければ家に帰ってもできるから」

前田さんの講義は和気あいあいとした雰囲気。作品を作る過程で1回欠席したとしても、先に進んでいる人が遅れているを手伝う

ので途中で辞める人がほとんどいないといえます。

「DIY&木工教室の面白いところは仲間づくりができることです。仲間ができると講義も人生も楽しくなりますよ」

総合大学が修了した後も、相談を受けるなど交流があるそう。

前田さんは総合大学講師のほかにボランティア活動にも力を注いできました。東日本大震災の発生から10年経って災害ボランティアに参加。広島市で発生した豪雨や熊本県で地震が起きた際にも、自費で被災地を訪れボランティアを行いました。「ボランティアでも仲間ができて、今でも連絡を取り合っていますよ」

また大隅ライオンズクラブの会長を務めていたこともあり、その頃は中学生への「職業講話」に力をいれていました。

「子どもは大人の話聞く機会がないので、自分の経験を話すことで子どもの苦労や悩みに役立ちたかったんです」

仲間づくりの楽しさや自分の経験・知識を惜しみなく伝える前田さん。地域への想いが強い方でした。



受講生が製作したDIY作品